

SEI分析レポート



2022年〇月〇日
シックスセカンズジャパン株式会社

- ① 職場ムード分布
- ② ハイパーフォーマー分析
- ③ EQ探求三領域分析
- ④ EQコンピテンシー分析
- ⑤ サクセスファクター分析
- ⑥ ワークライフバランス分析
- ⑦ 職場幸福度分析
- ⑧ 生産性分析
- ⑨ 事故防止準備度分析
- ⑩ 健康経営度分析
- ⑪ 共鳴型リーダーシップ分析
- ⑫ ブリーフ・プロフィール人数比*

受検者が選択した感情

受検者のEQ総合値とサクセスファクター総合値の分布

受検者のEQ探求領域平均値と日本人平均比較

受検者のEQコンピテンシー平均値と日本人平均比較

受検者のサクセスファクター平均値と日本人平均比較

受検者のソーシャルライフとパーソナルライフの分散分布

受検者の満足感と成就感からの分析

受検者の楽観性と内発動機からの分析

受検者の感情リテラシーと自己パターンの認識からの分析

受検者の身体的健康感と心身のバランス感からの分析

受検者の共感的理解、ノーブルゴールの追求、感情のナビゲートからの分析

受検者のブレインスタイル別人数比と構成比

* ⑫はSEIリーダーシップレポートおよびブレイン・ブリーフ・プロフィールの両方の受検を設定、完了している場合に作成します。ブレイン・ブリーフ・プロフィール受検のみのプロジェクトでは分析レポートは作成できません。)

検査について

SAMPLE

EQとは、感情と思考を効果的にブレンドし、
目指す成果に向けて感情をナビゲートする能力。

シックスセカンズの諮問委員の一人、ピーター・サロベイ（第23代イェール大学学長）とジョン・メイヤー（ニューハンプシャー大学教授）は彼らの共著「Model of Emotional Intelligence」（1997）でEQ（感情知能）について次のように定義しています。

- 感情知能は感情を正確に捉え、評価し、表現する能力
- 次に思考力を高めるために感情にアクセスする能力
- 感情の働きについて理解する能力
- そして情緒的、知的の双方の側面で成長を促すために感情を調節し、活用する能力

EQ（感情知能）とは、自己認識や自己管理を通じて、目指すべき成果を得るために感情と思考を調和させたり、感情を適切な方向にナビゲートしながら知的に活用させる能力なのです。



ピーター・サロベイ



ジョン・メイヤー

シックスセカンズのEQ検査「SEI」はEQ（感情知能）を日常において活用するための指針とするために開発された検査です。

検査概要

設問 77問

標準回答時間 8分

スコア算出母集団 75,000件 169か国を対象に任意抽出



EQ感情知能検査、SEIは、米国教育学会（AERA）・米国心理学会（APA）・全米教育測定協議会（NCME）の3団体が定める心理検査Level:Bに定められております。

シックスセカンズ EQ-in-Action(実践モデル)

SAMPLE



シックスセカンズでは、3つの探求領域

- 知る**：自己認識を高める自己会話 「今どのような気持ちなのか」
 - 選ぶ**：自己管理を高める自己会話 「どのような選択肢があるのか」
 - 活かす**：自己方向づけを高める自己会話 「結局どうありたいのか」
- を心がけることがEQ能力を活用することと定義しました。

そして、3つの探求をさらに支えるEQコンピテンシー（行動特性）として「感情リテラシー」をはじめとする右に示す8つのEQコンピテンシーを定義しました。

知る

選ぶ

活かす

Enhance Emotional Literacy	感情リテラシー	単純な感情状態から複雑なものまで、正確に認識解釈できる能力
Recognize Patterns	自己パターンの認識	習慣的に繰り返す反応や行動を認識できる能力
Apply Consequential Thinking	結果を見ずえた思考	自分がとろうとする行動がもたらすメリットとデメリットに関し、行動を取る前に考えることができる能力
Navigate Emotions	感情のナビゲート	感情を戦略的なリソース（情報資源）として捉え、その感情を評価し、活かしたり、変化させたりする能力
Engage Intrinsic Motivation	内発的なモチベーション	報酬や見返りなど外因性によるものではなく、個人の価値観や責任感など内から湧き上がるエネルギーを生み出す能力
Exercise Optimism	楽観性の発揮	希望や可能性を信じ、自ら前向きな展望をもてる能力
Increase Empathy	共感力の活用	周囲の人の感情を理解し、適切に対応する能力
Pursue Noble Goals	ノーブルゴールの追求	日々の選択を、自己の強く大きな目的と結びつける姿勢

EQを世界的に普及させたダニエル・ゴールマンはその著書「EQ-心の知能指数」の『第三章-秀才がつまづくとき』の中で次のように記述しています。

「心理学の公然の秘密として、学校のテスト、知能検査、SAT(大学進学適性試験)など広く世間で信用されている評価基準は人生における成功度の予言としてはあまり当てにならない、という事実がある。・・・(中略)・・・

人生を成功に導く要因のうち、IQが関係するのは多く見積もってもせいぜい二十パーセントどまりだろう。・・・(中略)・・・」

シックスセカンズはEQが直接人生の成功に寄与するのではなく、下記の4つのファクターが導いていると考え、4つのファクターとEQの関係を調査してきました。

その結果、EQのサクセスファクターへの説明率がどの国でも、またどの時期でも0.5~0.6の数値を出すことを突き詰めました。換言すると、EQを高めることでサクセスファクターが高まり、より自分らしい日常や人生を築くことができることがわかってきました。

サクセスファクター	定義
達成意欲	結果を出すために物事をやり遂げようとする能力
対人関係への意識	良好で強固な人間関係を構築する能力
ウェルビーイング	エネルギーや機能を高いレベルで保つ能力
クオリティオブライフ	よりよく生きることで真の幸福を創造する能力

「強み」と「課題」

SAMPLE

受検者数：〇〇名

受検時期：2022年〇〇月〇〇日～〇〇月〇〇日

活かすべき「強み」は以下の3つを得ました。

- 感情のナビゲート : 自分の感情を管理する
- 結果を見すえた思考 : よく考えて決定する
- 共感力の活用 : 周囲の人と気持ちを通わせる

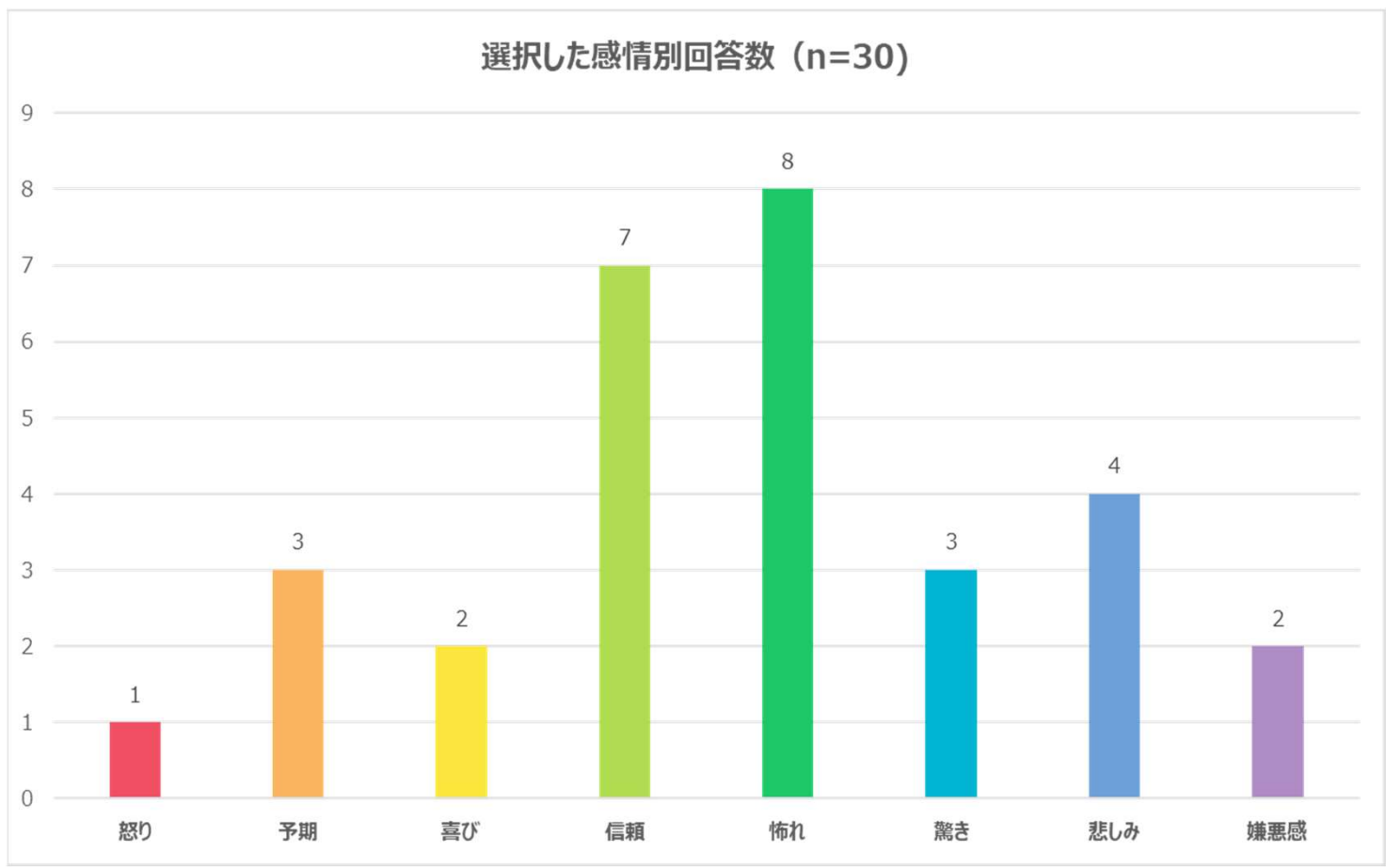
また、克服する課題としては以下の3つを得ました。

- 楽観性の発揮 : 新しい解決策を見つけ出す
- ノーブルゴールの追求 : 自分の考え方や価値観と日常の判断や行動の足並みをそろえる
- 内発的なモチベーション : 自分自身をやる気にさせる

① 職場ムード分布： 受検者が選択した感情

SAMPLE

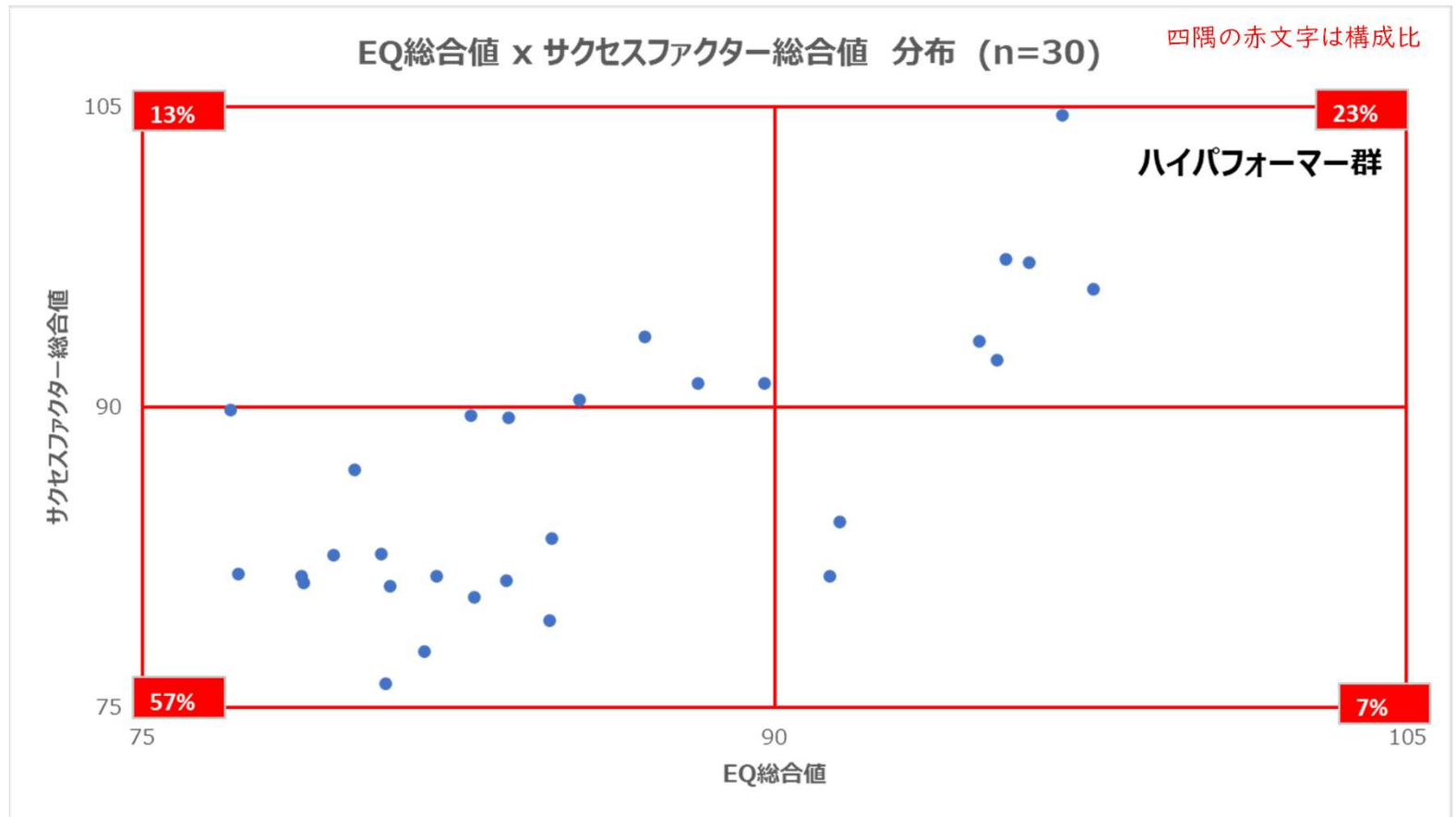
構成比(%)	A社(n=30)	2021 Japan(n=5000)
怒り	3	7
予期	10	10
喜び	7	30
信頼	23	15
怖れ	27	13
驚き	10	3
悲しみ	13	7
嫌悪感	7	9



②ハイパーフォーマー分析

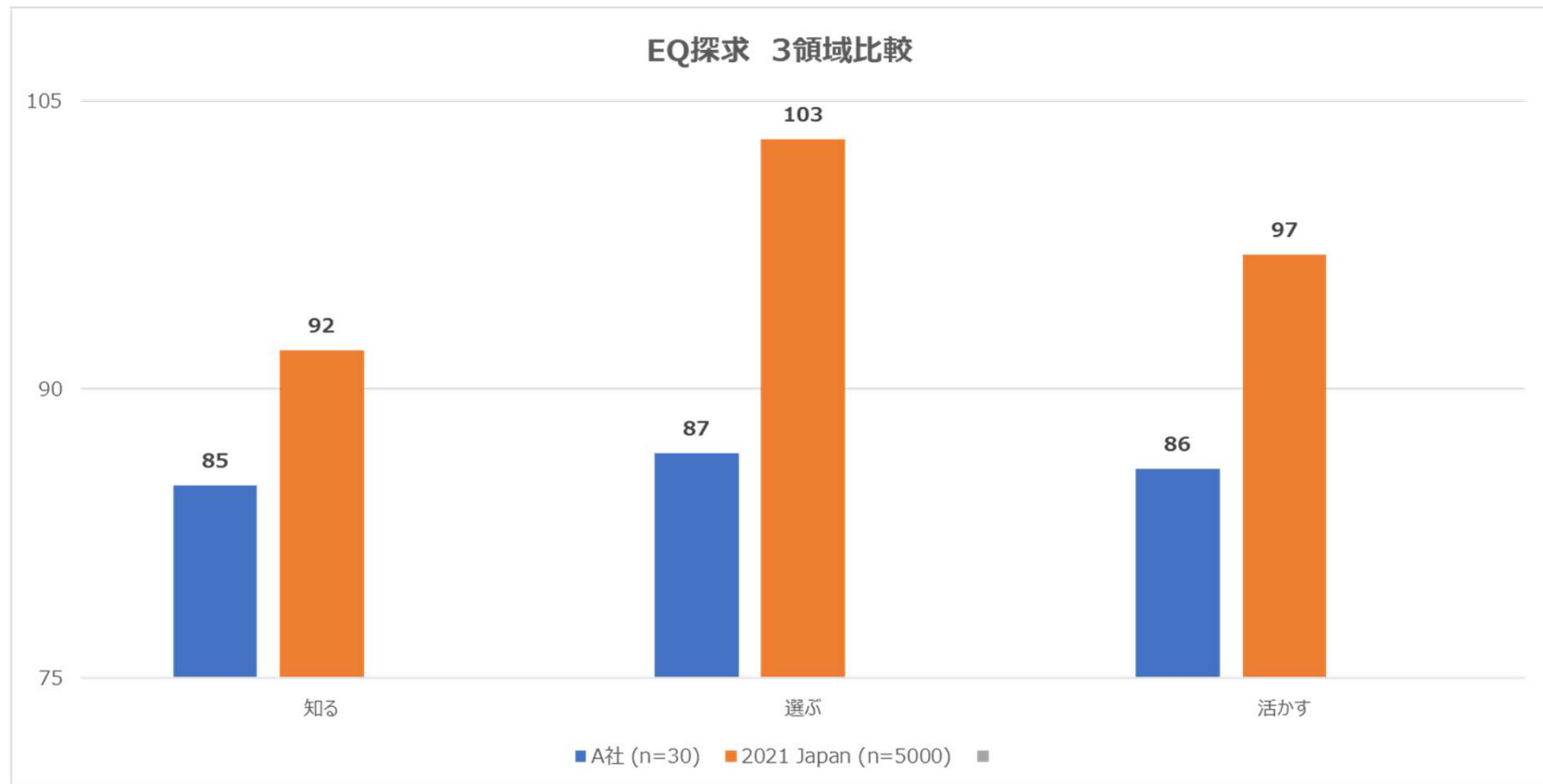
SAMPLE

A社 (n=30)		
	人数	構成比 (%)
第1象限	7	23
第2象限	4	13
第3象限	17	57
第4象限	2	7
	30	100
2021 Japan (n=5000)		
	人数	構成比 (%)
第1象限	2784	56
第2象限	618	12
第3象限	1133	23
第4象限	465	9
	5000	100



③EQ探求三領域分析 受検者のEQ探求領域平均値と日本人平均比較

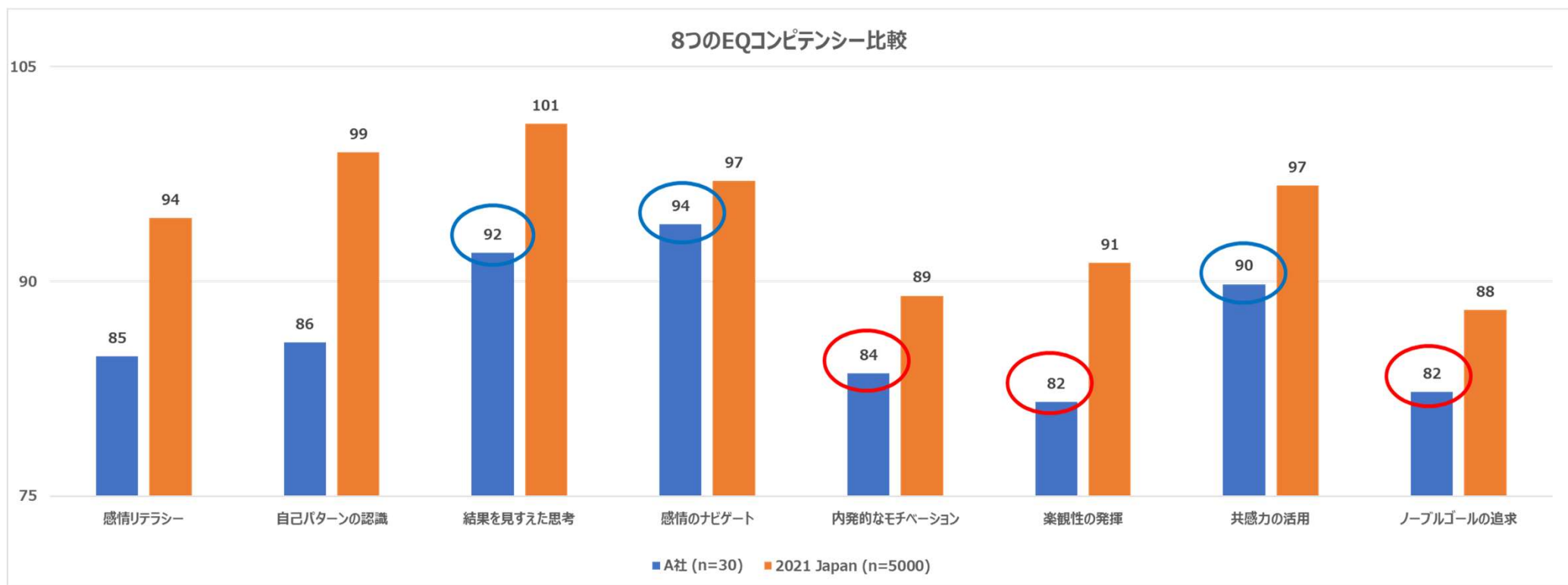
	知る	選ぶ	活かす
A社 (n=30)	85	87	86
2021 Japan (n=5000)	92	103	97



④EQコンピテンシー分析 受検者のEQコンピテンシー平均値と日本人平均比較

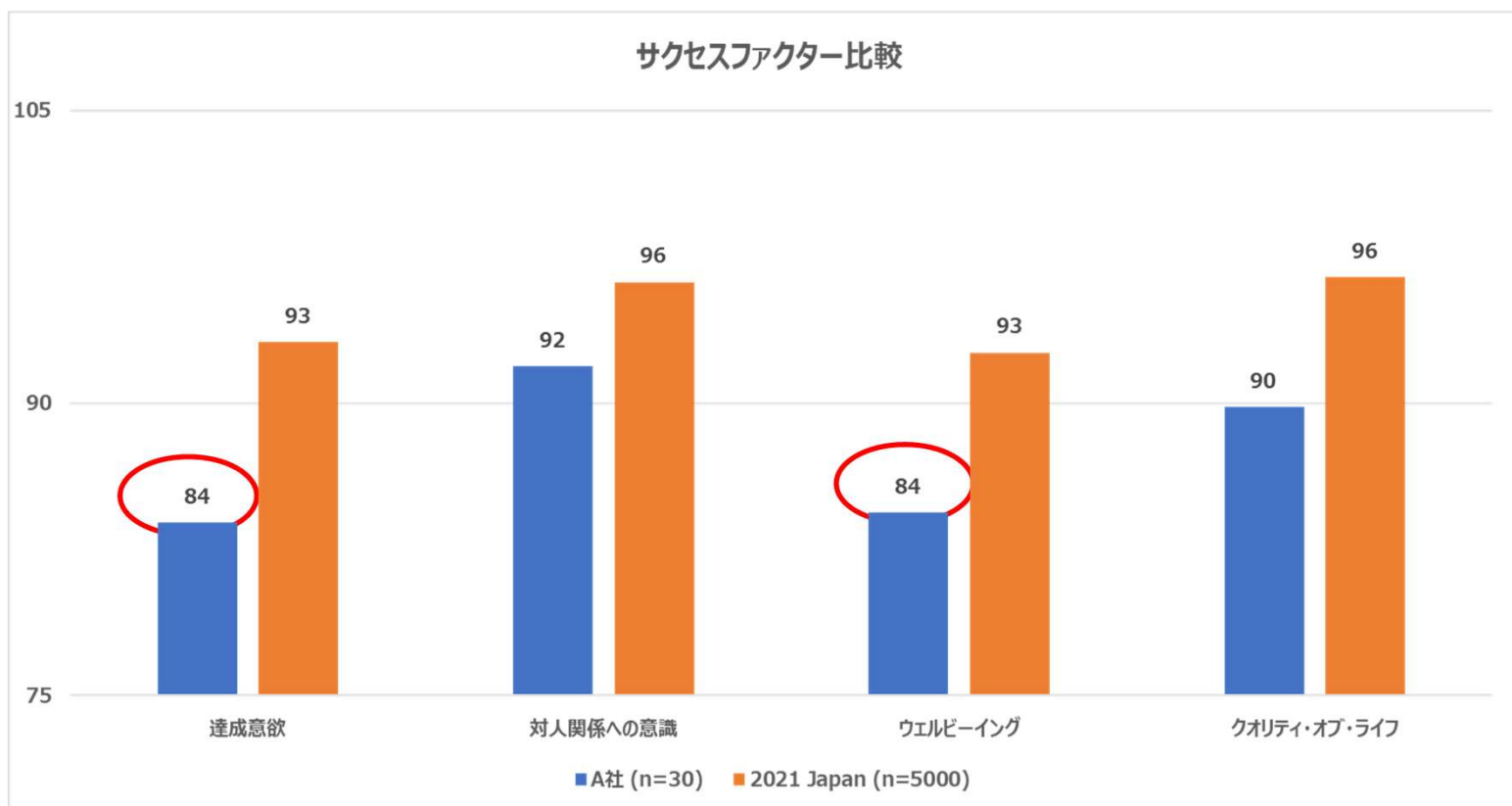
SAMPLE

	感情リテラシー	自己パターンの認識	結果を見ずえた思考	感情のナビゲート	内発的なモチベーション	楽観性の発揮	共感力の活用	ノーブルゴールの追求
A社 (n=30)	85	86	92	94	84	82	90	82
2021 Japan (n=5000)	94	99	101	97	89	91	97	88



⑤サクセスファクター分析 受検者のサクセスファクター平均値と日本人平均比較

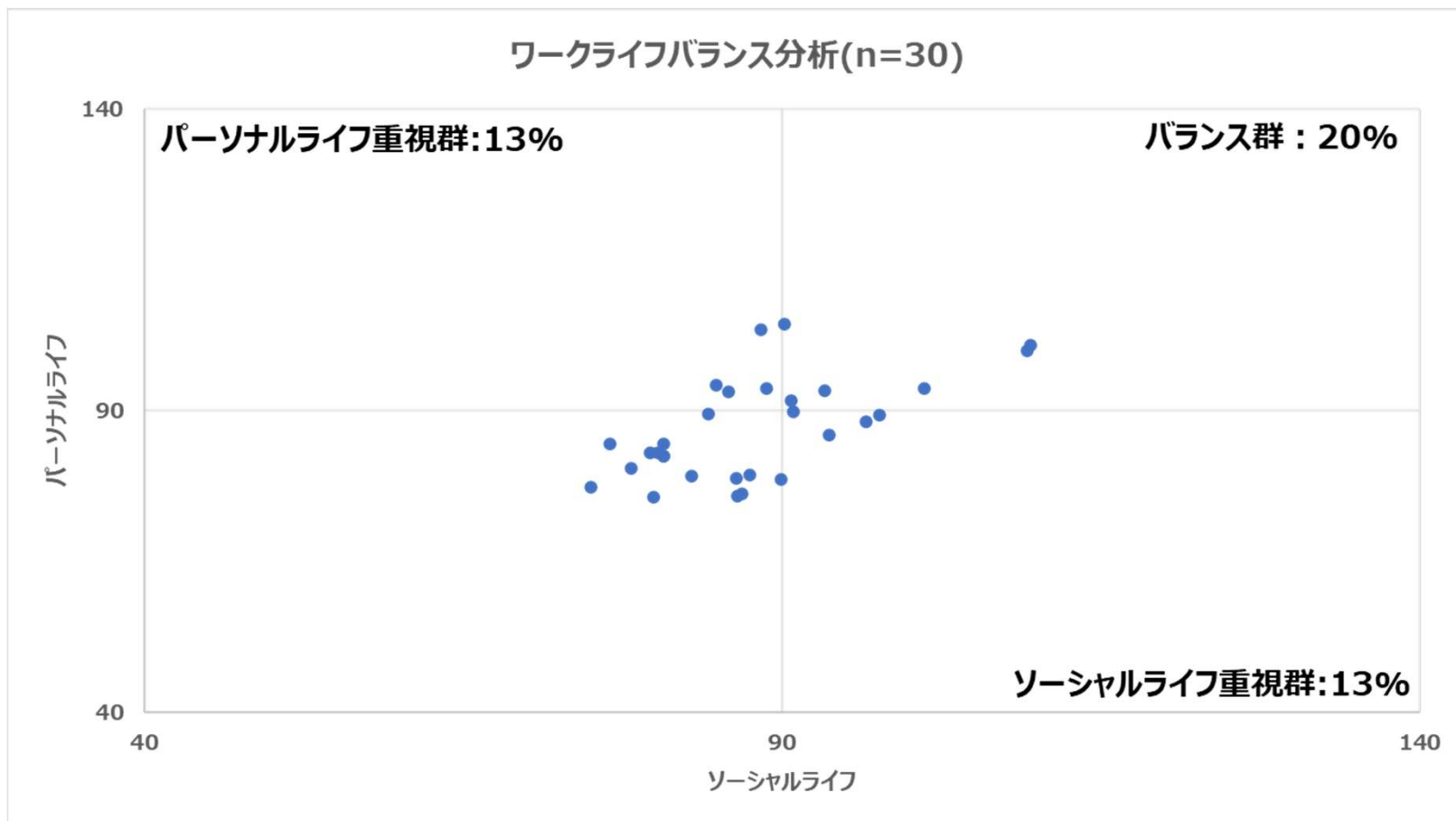
	達成意欲	対人関係への意識	ウェルビーイング	クオリティ・オブ・ライフ
A社 (n=30)	84	92	84	90
2021 Japan (n=5000)	93	96	93	96



⑥ワークライフバランス分析

SAMPLE

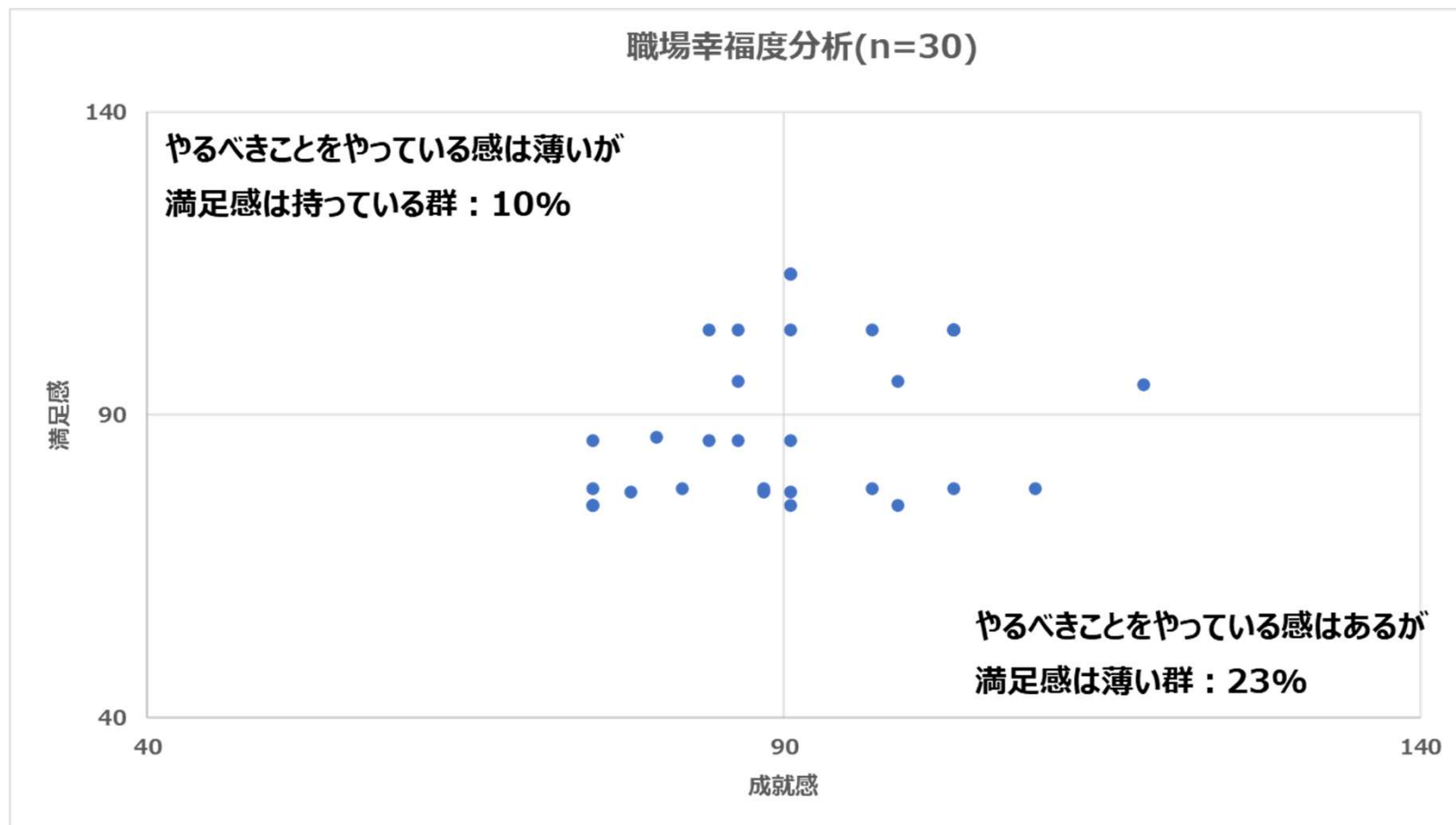
A社 (n=30)		
	人数	構成比 (%)
第1象限	6	20
第2象限	4	13
第3象限	16	53
第4象限	4	13
	30	100
2021 Japan (n=5000)		
	人数	構成比 (%)
第1象限	2784	56
第2象限	618	12
第3象限	1133	23
第4象限	465	9
	5000	100



⑦ 職場幸福度分析

SAMPLE

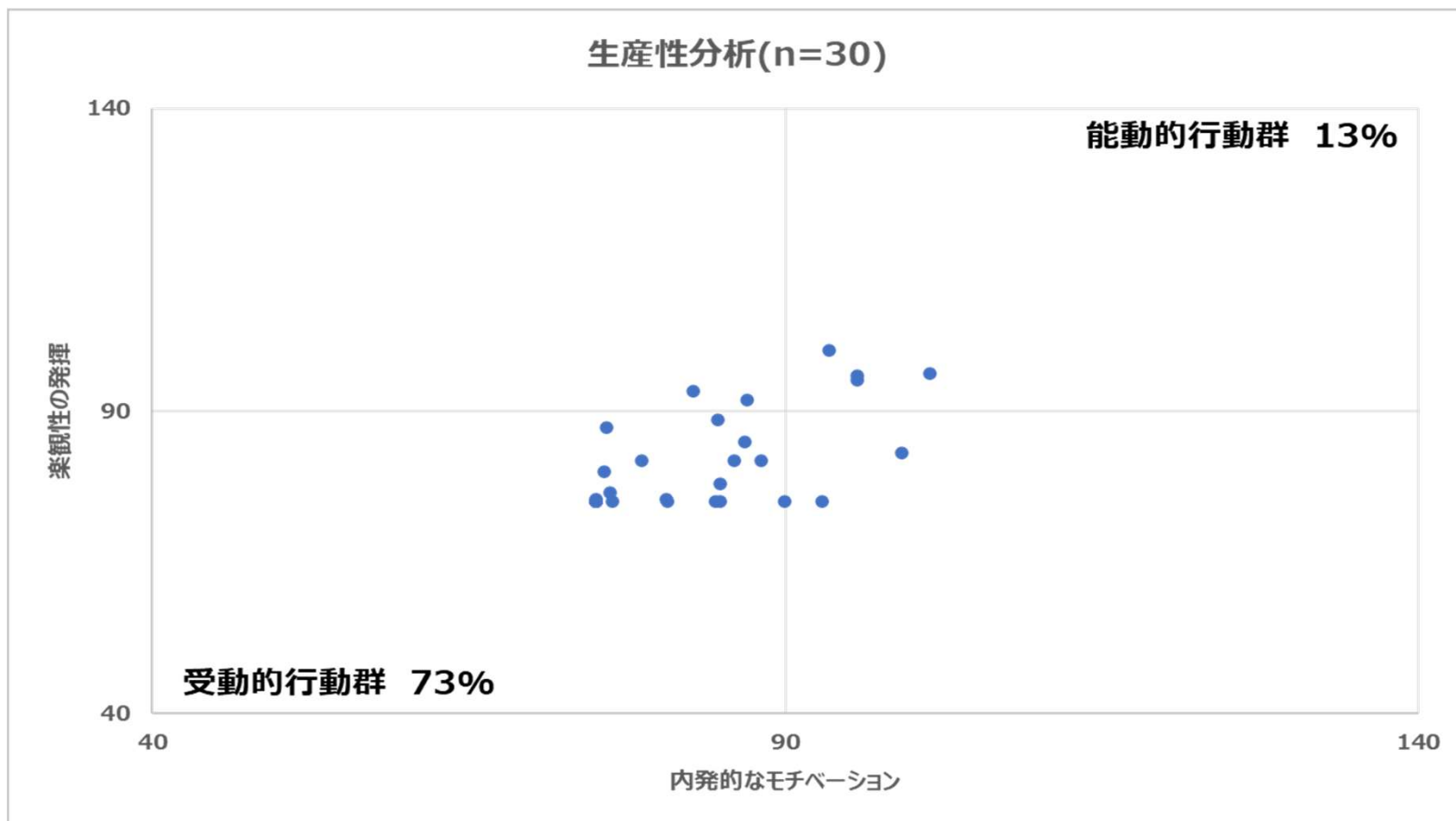
A社 (n=30)		
	人数	構成比 (%)
第1象限	9	30
第2象限	3	10
第3象限	11	37
第4象限	7	23
	30	100
2021 Japan (n=5000)		
	人数	構成比 (%)
第1象限	1942	39
第2象限	470	9
第3象限	1531	31
第4象限	1057	21
	5000	100



⑧生産性分析

SAMPLE

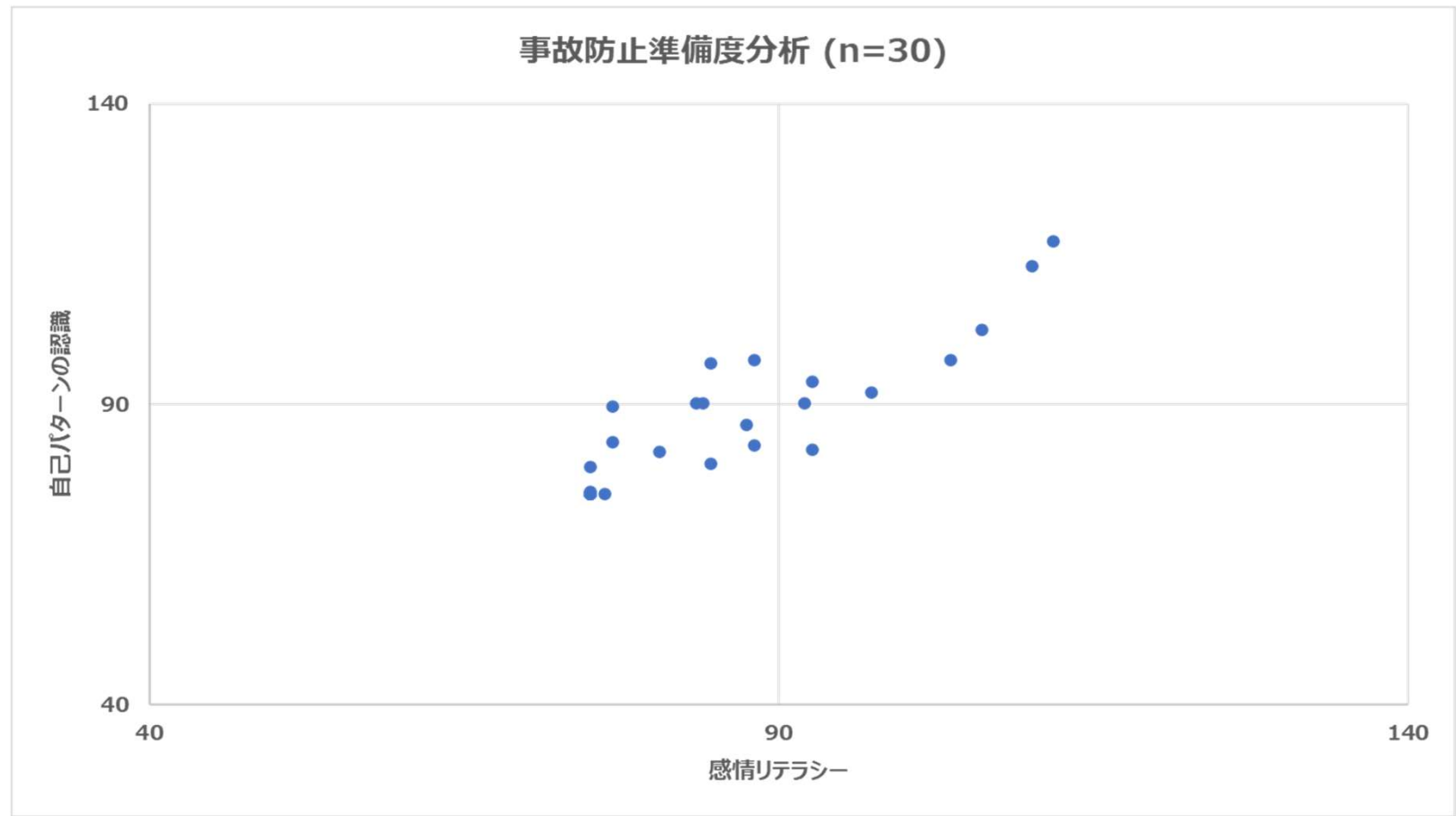
A社 (n=30)		
	人数	構成比 (%)
第1象限	4	13
第2象限	2	7
第3象限	22	73
第4象限	2	7
	30	100
2021 Japan(n=5000)		
	人数	構成比 (%)
第1象限	1973	39
第2象限	643	13
第3象限	1945	39
第4象限	439	9
	5000	100



⑨事故防止準備度分析

SAMPLE

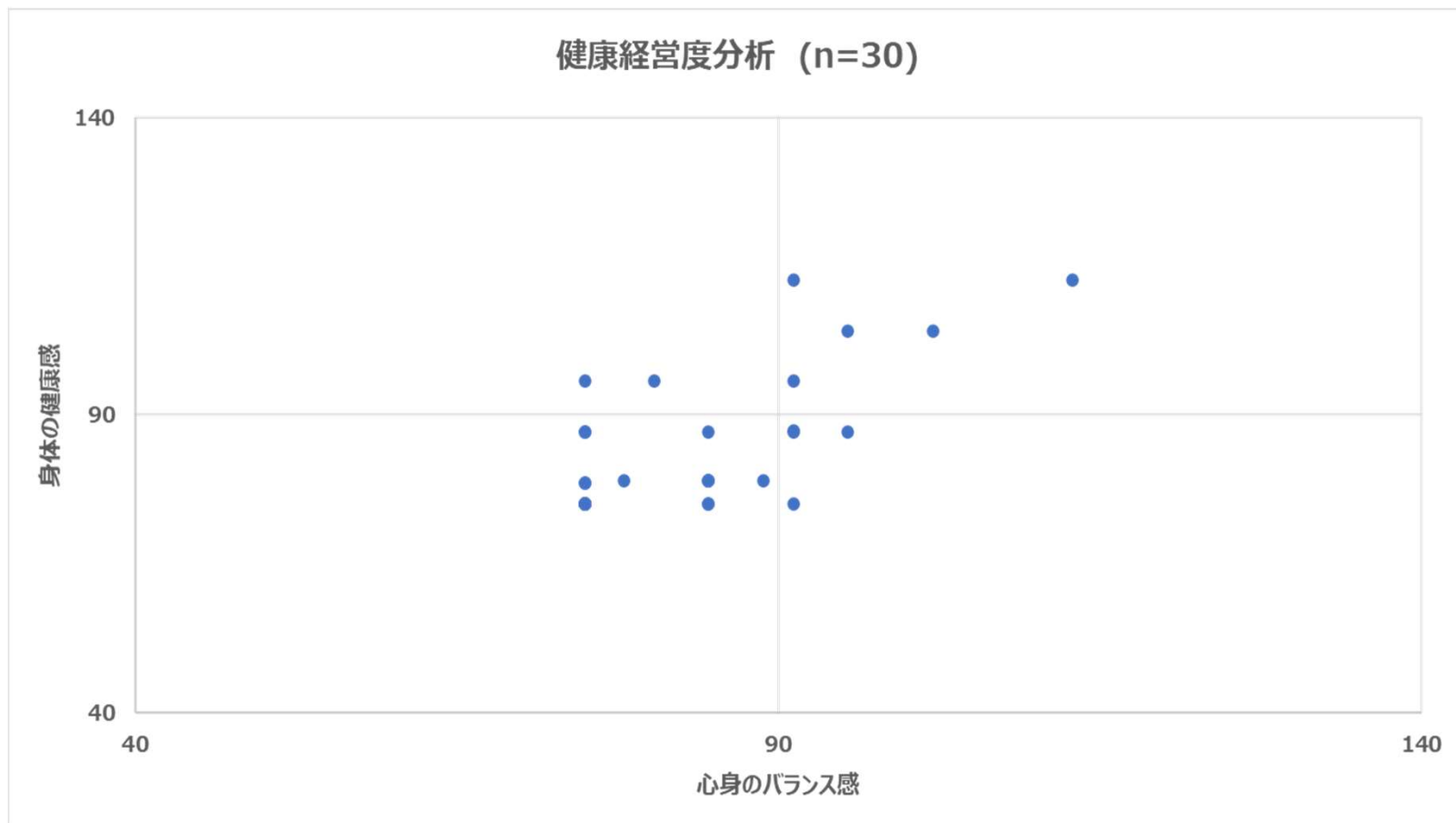
A社 (n=30)		
	人数	構成比 (%)
第1象限	7	23
第2象限	4	13
第3象限	18	60
第4象限	1	3
	30	100
2021 Japan (n=5000)		
	人数	構成比 (%)
第1象限	2697	54
第2象限	549	11
第3象限	1301	26
第4象限	453	9
	5000	100



⑩健康経営度分析

SAMPLE

A社 (n=30)		
	人数	構成比 (%)
第1象限	5	17
第2象限	2	7
第3象限	19	63
第4象限	4	13
	30	100
2021 Japan(n=5000)		
	人数	構成比 (%)
第1象限	2686	54
第2象限	749	15
第3象限	809	16
第4象限	756	15
	5000	100



①共鳴型リーダーシップ分析

SAMPLE

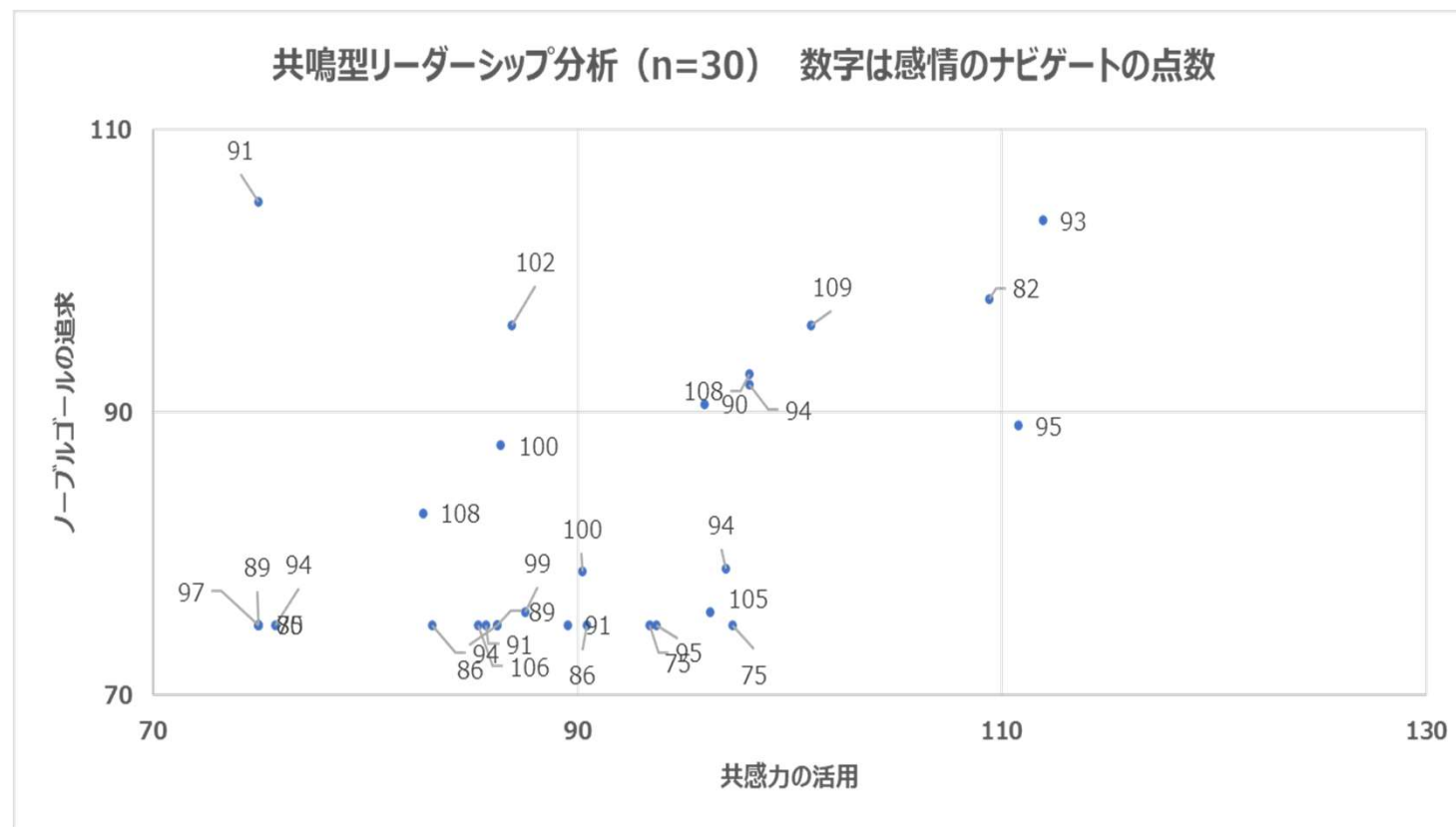
出現率 (%)	A社 (n=30)	2021 Japan (n=5000)
右上	0	2

上記の表は、

- ・ 共感力の活用
- ・ ノーブルゴールの追求
- ・ 感情のナビゲート

の3つのEQコンピテンシーが110以上となる個をもとめ全体の母数に対する出現率を求めたものです。

上記の該当者は0人でした。



⑫ブレイン・ブリーフ・プロフィール受検者構成比

SAMPLE

	人数	人数	
サイエンティスト	3	0	ビジョナリー
インベーター	1	11	ガーディアン
ストラテジスト	3	7	スーパーヒーロー
デリバラー	0	5	セージ

スタイル	人数	EQ総合値	SF総合値
サイエンティスト	3	85	88
インベーター	1	95	97
ストラテジスト	3	91	95
デリバラー	0	該当なし	該当なし
ビジョナリー	0	該当なし	該当なし
ガーディアン	11	84	86
スーパーヒーロー	7	86	87
セージ	5	89	85

